

感染対策と針刺し事故対策

奈良県立医科大学感染症内科学講座
酒井 勇紀

労働安全衛生/医療の安全に関する法的義務

- 事業者

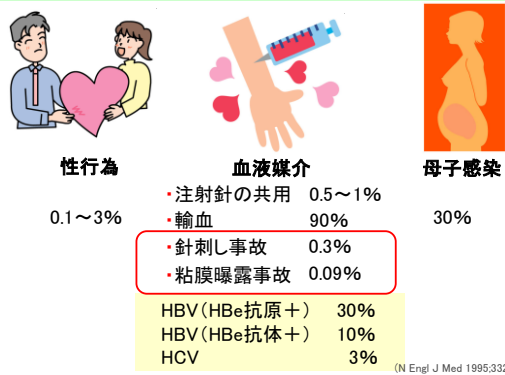
安全(健康)配慮義務
労働者がその生命、身体等の安全を確保しつつ労働することができるよう、必要な配慮をするものとする
(労働契約法5条)

労働者の安全と健康を確保する
(労働安全衛生法1条)
- 管理者

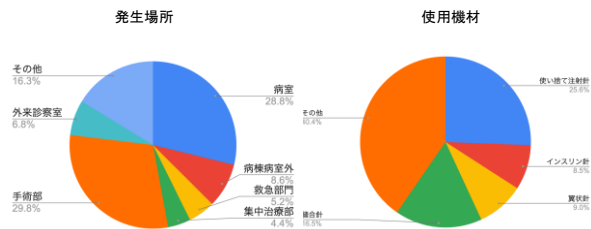
医療の安全の確保
医療の安全を確保するための指針の策定、従業者に対する研修の実施、その他の医療の安全を確保するための措置を講じなければならない
(医療法6条の12)
- 労働者

健康保持義務
労務を提供するために自己の健康状態の維持を図らなければならない
(労働安全衛生法4条、69条2項)

HIVの感染リスク(無治療かつ予防策をとらない場合)



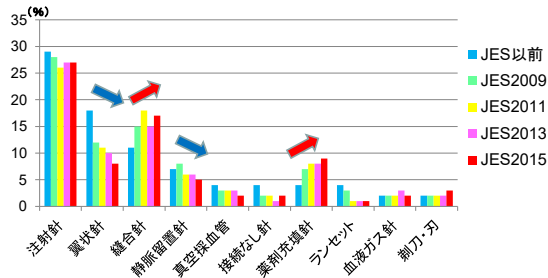
針刺し・切創事故の発生場所と使用機材



(一般社団法人職業感染制御研究会HP 針刺し・切創 2020年度より作成)

針刺し・切創の原因器材の推移

- ・5大原因器材は注射針、縫合針、翼状針、薬剤充填針、静脈留置針
- ・翼状針、静脈留置針は減少
- ・縫合針、薬剤充填針は増加傾向



(職業感染制御研究会データ)

対策の一つは安全器材の導入・普及

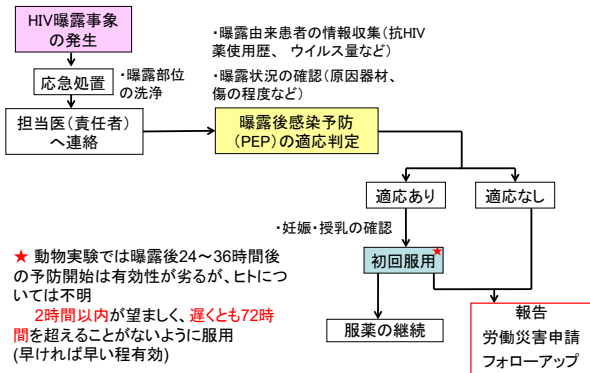
- ・従来器材 vs 安全器材による静脈採血処置での経皮的損傷件数
→安全器材の使用で発生率は23～76%減少 (MMWR 1997; 46: 21-25)
- ・安全装置付き翼状針の導入前後での翼状針針刺し事故件数
→8～11件/3カ月から1～3件/3カ月に減少 (感染症誌 2006; 80: 39-45)



感染経路を意識して感染対策

	標準予防策	感染経路別予防策		
		接触予防策	飛沫予防策	空気予防策
対象	全ての患者	感染性が強く重大な病態を引き起こす感染患者		
手指衛生	・手洗い ・手指消毒 ・手袋着用	○	／	／
防護具				
手袋	体液等に触れる時	入室時に着用	／	／
マスク	体液等が飛ぶ可能性がある時	／	サージカルマスク	N95マスク
ガウン	衣類が汚染する可能性がある時	患者に接触する可能性がある時	／	／
ゴーグル	体液等が飛ぶ可能性がある時	／	／	／

職員のHIV曝露時における院内での対応



HIV曝露後の予防(第一推奨薬)

デシコビHT®(TAF/FTC): 核酸系逆転写酵素阻害薬

1錠 × 1回/日

★ デシコビHT®(TAF/FTC)は妊娠14週未満の安全性が未確立である

★ ソルバダ®(TDF/FTC)も代替薬として使用可

+

アイセントレス®(RAL) 400mg: インテグラーゼ阻害薬

1錠 × 2回/日 × 28日間

★ アイセントレス®(RAL) 600mgを使用する優位性は指摘されていない

★ テビケイ®(DTG) 50mgは第二推奨の代替薬として使用可

注意点

- ・B型肝炎
- ・腎障害
- ・薬剤耐性の可能性

(US Public Health Service guidelines, 2013)
(厚生労働省研究班 抗HIV治療ガイドライン, 2025)

HIV曝露後の予防(第一推奨薬)

ビクタルビ®(BIC/TAF/FTC)

1錠 × 1回/日 × 28日間

注意点

- ・妊娠
- ・B型肝炎
- ・腎障害
- ・薬剤耐性の可能性

(US Public Health Service guidelines, 2013)
(厚生労働省研究班 抗HIV治療ガイドライン, 2025)

施設で採用されている薬剤の中から使用薬剤を決定する。

HIV曝露後の経過観察

チェック時期	チェック項目
・曝露時	・HIVスクリーニング検査
・6週目	・末梢血検査
・12週目	・腎機能検査
・6ヵ月目	・肝機能検査
	(HBV関連・HCV関連検査)

HIVスクリーニング検査が第4世代HIV抗原/抗体検査であれば、

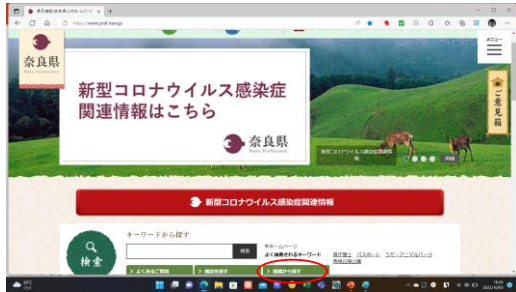
・曝露時
・6週目
・4ヵ月目

(厚生労働省研究班 抗HIV治療ガイドライン, 2023)

必要に応じて追加

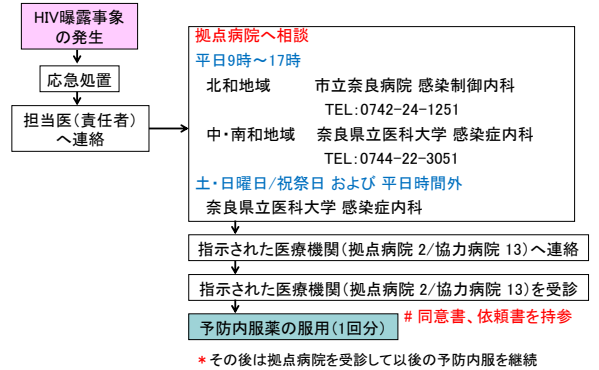
奈良県 HIV曝露後の予防服用マニュアル 平成28年10月更新

奈良県公式ホームページ(<http://www.pref.nara.jp/>)

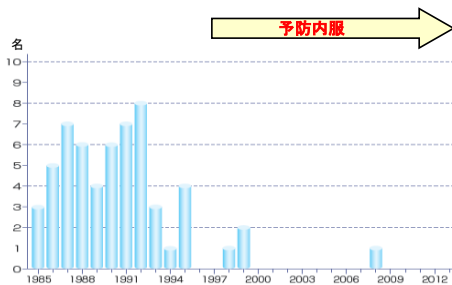


組織から探す→福祉医療部医療政策局 疾病対策課→重要な施策について→エイズ対策関連情報→医療従事者におけるHIV曝露後の予防服用マニュアル (<http://www.pref.nara.jp/dd.aspx?moduleid=47305#moduleid47305>)

奈良県 予防服用フローチャート(緊急対応用)



米国での曝露後予防(PEP)内服の効果

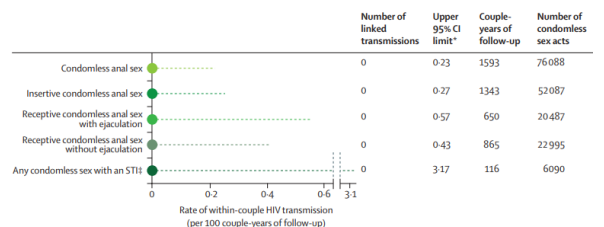


- AZTの予防内服→HIV感染成立リスクを81%減少
- 2008年は研究室でのウイルス培養実験中の事故

(MMWR, 2015)

抗HIV治療はHIV伝播を防ぐ(PARTNER試験)

一方がHIV非感染者のMSMカップルにおいて、抗HIV治療でウイルス量を検出限界未満に抑制した際のコンドームなしでの性的接触によるHIV感染リスク



(Rodger AJ, et al. Lancet 2019;393:2428)

U=U: Undetectable = Untransmittable

- ※ HIV伝播は防げるが梅毒など性感染症は防げないことに注意！

ま と め

1. 職業感染・院内感染対策は法的な義務であり、適切に実施しなければならない。
2. HIV感染症での感染対策は標準予防策で十分である。
3. HIV曝露事故後の感染予防策は確立しているので、各医療機関でマニュアル作成等を行い、準備しておく必要がある。
4. 治療でウイルス量が良好にコントロールされているHIV感染者では感染リスクが非常に低くなる。

ご清聴ありがとうございました

